

処方せん医薬品^{注)}

総合電解質輸液

フィジオゾール[®] 3号輸液

(維持液10%糖加)

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること

使用時及び保管：取扱い上の注意の項参照

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

日本標準商品分類番号	87 3319
フィジオゾール3号輸液	500mL袋
承認番号	22100AMX01267
薬価収載	2009年9月
販売開始	2004年7月
再評価結果	1978年3月

Physiosol[®] No.3 Injection

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

- (1) 高乳酸血症の患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- (2) 電解質代謝異常のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
 - ① 高カリウム血症 (乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症等) の患者
 - ② 高マグネシウム血症 (甲状腺機能低下症等) の患者

※※【組成・性状】

※1. 組成

本剤は1容器中に次の成分を含有する注射液である。

成分	500mL中
塩化ナトリウム	0.45 g
塩化カリウム	0.745g
L-乳酸ナトリウム	1.120g
塩化マグネシウム	0.152g
ブドウ糖	50.0 g
熱量	200kcal

電解質濃度 mEq/L				
Na ⁺	K ⁺	Mg ²⁺	Cl ⁻	L-Lactate ⁻
35	20	3	38	20

本剤は添加物としてL-乳酸 (pH調整剤) を含有する。

2. 製剤の性状

本剤は無色～微黄色澄明の注射液である。

pH	約4.7 (製造直後の平均実測値)
	4.0～5.2 (規格値)
浸透圧比	約2～3 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

経口摂取不能又は不十分な場合の水分・電解質の補給・維持、エネルギーの補給

【用法・用量】

通常成人、1回500～1000mLを点滴静注する。投与速度は、通常成人ブドウ糖として1時間当たり0.5g/kg体重以下とする。なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 腎不全のある患者 [水分、電解質の調節機能が低下しているため、慎重に投与すること。]
- (2) 心不全のある患者 [循環血流量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3) 重篤な肝障害のある患者 [水分、電解質代謝異常が悪化するおそれがある。]
- (4) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 [水分、電解質の過負荷となり、症状が悪化するおそれがある。]
- (5) 糖尿病の患者 [ブドウ糖の組織への移行が抑制されているため、高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類/頻度	頻度不明
大量・急速投与	脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫、水中毒、高カリウム血症、血栓性静脈炎

第一次再評価結果その14、1978年

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 投与前：①尿量は1日500mL又は1時間あたり20mL以上あることが望ましい。
②投与に際しては、感染に対する配慮をすること (患者の皮膚や器具消毒)。
③寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
④開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (2) 投与時：ゆっくり静脈内に投与すること。

【薬効薬理】

1. 水分・電解質の維持・補正
経口摂取不能又は不十分な病態時に本剤を点滴投与し体液の水分・電解質の補給・維持を図る。
2. カロリー補給
ブドウ糖を10w/v%含有しており400kcal/Lのカロリーを効果的に補給する。

【取扱い上の注意】

- (1) 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと注射針が容器頸部を貫通し、液漏れの原因となることがある。
- (2) ソフトバッグ製品は、原則として連結管を用いたタンデム方式による投与はできない。
- (3) 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- (4) 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

【包装】

フィジオゾール3号輸液 500mL 20袋 ソフトバッグ入り